

都市デザインの広報について

1 都市デザインを知る、深める機会づくり

(1) 出張講義・登壇・執筆・視察受け入れ等

8月29日 全国地域リーダー養成塾終了研修会 パネリスト参加

9月26日 川崎市立小学校社会科見学 児童 209名 教諭 10名

11月22日 「まちづくりと都市デザインの50年」(日本建築学会関東支部神奈川支所) コメンテーター登壇

12月18日 NHK日本国際放送「ジャーニーズ・イン・ジャパン」まちあるき案内

12月22日 質の高い公共デザインの実現手法に関する調査(国総研) ヒアリング協力
令和2年

7月末 都市計画学会誌「都市計画(特集:まちづくりマインドを育む)」への執筆

(2) インターン生受け入れ

8月11日-25日 参加者数3名 →新型コロナウイルスのため受け入れ中止

(3) 都市デザインワークショップ

3月26日 横浜市役所新採用予定者向け都市デザインワークショップ 30名程度
→新型コロナウイルスのため中止

(4) 都市デザイン研究会

12月6日 第35回「横浜らしい新しい墓地の形」

講師:石川洋一郎氏(ランドスケープデザイナー、株式会社 TREEFORTE 代表)

2 都市デザイン行政の強化【庁内向け広報・行政職員の育成・庁内連携強化】

(1) 局転入者向けまちあるき研修(異動者・新採用職員等向け)

4月某日予定 →新型コロナウイルスのため中止

(2) 景観カフェ

景観協議担当者による横断的な情報共有の場として、不定期に開催。

参加者:都市整備局(都市デザイン室、景観調整課、都心再生課、みなとみらい21推進課、地域まちづくり課)、港湾局(整備推進課)等

(3) UD通信の発行

第76号・第77号 新メンバー紹介

3 研究機関との連携による都市デザイン活動の促進

(1) 大学連携事業

大学の知的資源・人材を活かし、都市デザイン活動の質を高めるべく、大学との連携事業に取り組んでいます。

今年度テーマ:横浜市臨海部におけるストリートデザインビジョンに関する研究(予定)

取組期間 : 協定締結後、年度内まで (予定)
連携先 : 横浜国立大学野原研究室 (予定)

4 都市デザイン行政の海外展開

(1) パナマシティ (パナマ)・バランキージャ (コロンビア) 等南米諸国に対する「都市デザインビジョン」を活用した技術協力

世界銀行が南米において実施するプロジェクトで、都市デザインビジョン風景スケッチを用いたワークショップ等の実施により、公民連携による都市の魅力づくり・課題解決を目指すプロジェクト。元都市美対策審議委員等の協力も得ながら、パナマシティやバランキージャでのワークショップの実施に関わる技術支援を行うとともに、更に、南米諸国に同様の技術協力を行うための、ガイドラインを作成中。

2019年4月 パナマ パナマシティ 専門家チーム派遣
2020年2月 コロンビア バランキージャ 専門家チーム派遣

5 景観ビジョンの展開

(1) 景観まちづくり学習の展開

小学生等の早い段階から、地域や街への興味や愛着を持ってもらうため、教育の現場と連携して、景観を切り口とした授業を支援しています。

(ア) Yokohama 地域学校協働フォーラムへの出店

令和9月21日には、小学校の先生や学校地域コーディネーターを対象とする Yokohama 地域学校協働フォーラムに出店し、景観をテーマにしたまち歩きを含めた景観まちづくり学習のPRを行いました。

(イ) 景観まちづくり動画の作成

「景観」をキーワードにしたまち探検を紹介する動画を作成し、8月5日に公開しました。

(2) 公共空間活用

公共空間においては、人の活動を考えた空間のデザインだけでなく、整備後における利活用の推進も行っています。

(ア) 東横線廃線跡地の活用

令和元年7月に、JR桜木町駅～紅葉坂下の高架を含む区間が整備完了・供用開始となったことをきっかけに、関係部署と連携し、利活用の検討を行っています。

9月24日 第1回活用実験「東横線跡地に行ってみよう、使ってみよう！」

12月20日 第2回活用実験「こたつでシネマ」

(イ) 新型コロナウイルスの影響に対応するための公共空間活用支援

7月に国土交通省より、新型コロナウイルスの影響に対応するための道路占用の特例的取扱いについての通達が出たことをきっかけに、市内の公共空間管理者や、商業・まちづくり支援部署による連携会議を開き、支援体制を構築しています。

また、道路だけでなく、公開空地も本市独自の施策として特例的取扱いの対象とするなど、公共空間全体で特例的利活用を支援できるよう、調整を進めています。



まち探検が変わる！ 「景観」をヒントにしたまち探検を紹介する動画 「きらきら☆景観まち探検」を作成しました！

横浜市では、よりよい景観づくりを推進していくために、小学生など早い段階で身近な景観への関心や愛着を深めることが重要だと考えています。そのために、教育現場において先生と共に「景観」をヒントにしたまち探検を実践するなど、学校教育と連携して景観まちづくり学習を推進しています。

この度、今まで実践してきた「景観」をヒントにしたまち探検を「きらきら☆景観まち探検（略して「きら☆まち」）」と称し、「きら☆まち」を紹介する動画を作成しました。この動画をきっかけとして、より多くの子どもたちが景観づくりの見方や取り組み方を身に付けられるよう、景観まちづくり学習のさらなる普及を図っていきます。

1 背景

横浜市景観ビジョンでは、景観まちづくり学習を推進し、1人ひとりが地域の一員として景観まちづくりの担い手になることを目指しています。横浜市ではこの考え方にに基づき、教育現場の先生と共に、まち探検を実践しながら、よりよい景観まちづくり学習について議論してきました。「きら☆まち」動画は、これらの取組をより広く展開していくために作成したものです。



2 内容（約8分40秒）

小学生の子どもたちにもわかりやすく、また楽しみながら学習できるように、以下の内容を人形劇で紹介しています。

- ・「景観」とは何か？／具体的なまち探検の方法
- ・専用のワークショップツール（シール等）を使ったまとめ方
- ・その後の展開

動画の終盤では、先生に向けて、総合学習として「きら☆まち」を行う際のヒントなども紹介しています。



3 特長

- ・子どもたちにも身近な動画とすることで、「景観」に気軽に触れ、身近に感じることができます。
- ・「景観」を通して、まち探検を課題発見型から魅力発見型へ変えることで、普段気付かないまちの魅力や個性を発見でき、まちへの愛着やまちづくりへの興味が深まります。
- ・総合学習等の教育現場で実践する前に子どもたちに見てもらうことで、「きら☆まち」をスムーズに進めることができます。

4 公開場所

YouTubeの横浜市公式チャンネル@CityOfYokohamaにて公開しているほか、横浜市の景観まちづくり学習についてのホームページでも公開しています。

景観まちづくり学習 URL : <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/keikanchosei/le.html>



なお、動画内でも紹介しているワークショップツールは、上記のホームページからダウンロード、印刷することですぐに使うことができます。

お問合せ先

都市整備局景観調整課長	吉田 和重	Tel 045-671-2006
都市整備局都市デザイン室長	梶山 祐実	Tel 045-671-2009